



冬季死亡災害ゼロ100日運動通信

【運動期間：令和5年11月22日～令和6年2月29日】

令和6年
2月号

1. 運動期間残り約1ヶ月!! 最後まで高い安全意識で!!



100日間という長期間の運動も残り約1か月（約1/3）となりました。今年度は、運動開始直後に死亡労働災害が発生し、残念ながら目標は達成することはできませんでしたが、多くの事業場では最後まで継続的に“死亡災害ゼロ”に向けて対応いただいていると思います。しかし、運動の理念は持っていても、長い期間というのは必ずその状況に“慣れ”が生じ、その（運動の）重要性への気持ちが薄れてきます。そのような時は、時折、安全意識を高め戻すことが重要です。全体朝礼、巡視時の声掛け、作業員同士の声掛けなど声を発することは効果的です。特にリーダー的な立場の方は最後まで積極的な声掛けをお願いします。

2. 管理活動の好事例集が完成しました

一関労働基準監督署では、令和5年9月に、管内の労働者数50人以上の事業場を中心に、安全管理・労働衛生管理の好事例の提供の依頼を行いました。（期間：9月4日から10月31日まで）

この取組の背景としては、①「労働災害が爆発的な多発事態にあり、現状の管理水準のままでは著しい災害減少の期待は困難なことから、自社以外の事例を知ることで現状の管理水準から脱却を図り飛躍的な水準UPの効果を期待すること（災害ゼロで安全管理が優秀な事業場も多いことに着目）」、②「健康診断結果の有所見率が6割以上と高水準であるが、一方で健康経営に取り組む事業場も多いこと」から、安全と衛生の各好事例を収集し、これを管内の事業場に水平展開することによって、皆様の職場でも安全衛生水準の向上に役立てていただこうと考えたものです。

今回は第1回目の取り組みで、安全好事例は10事業場から17事例、衛生好事例は13事業場から24事例の提供がありました。事例については、好事例集としてとりまとめ、岩手労働局のホームページに掲載しております。ぜひご活用ください。（なお、このあと、事例に対しての表彰も予定しております。）事例提供していただいた事業場の皆様には感謝申し上げます。



組織的な安全管理の方法
 業種特有の危険への対策
 転倒災害防止
 高年齢労働者の労働災害防止への配慮
 効果的な安全教育のやり方
 「離反呼称」や「一人KY」などの任意行動への取組み
 安全意識の高揚を促す取組み
 その他（自由）

【取組内容】
安全通路の確保




【取組みを始めたきっかけや費用の目安など】
 建築現場で地這配線をせざるを得ない箇所に於いて、安全通路でのつまずき転倒防止のため塩ビ製養生シートにて電気コードの養生、つまずき防止を行いました。またシート下に段差の有る箇所に於いては、同一2の様に注意喚起標識を配置し転倒防止、安全な通路の確保に努めました。費用は塩ビ製養生シートで760円/m²ですが販売単位は30m巻き（幅1.0m）で22,800円となります。寧ろ取り扱いが容易で設置もしやすく、現場内に於いてはつまずき転倒防止に大きく役立っています。

内容の一例
地べた配線をシートで養生して転倒防止を図った事例

一関監督署からのお知らせ 検索

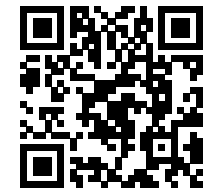


『職場のあんぜんサイト』をご利用ください

厚生労働省の「職場のあんぜんサイト」では、安全衛生管理のためのさまざまな情報を見ることができます。例えば、「労働災害事例」「ヒヤリハット事例」「安全衛生教育用の動画」「リスクアセスメント実施支援システム」「化学物質の各種情報」があります。動画は、現代風のシンプルなアニメで、コメントが動いて出てきたりするため、面白く見れる内容となっています。



職場のあんぜんサイト 検索



『冬季転倒災害防止対策強化期間』（12月～2月）も展開中です。

3. 労働災害の発生状況 (令和5年分(令和5年12月末現在)) (確定は令和6年3月末の予定です)

一関労働基準監督署管内の全産業における休業4日以上の労働災害による死傷者数は197人で、前年同期比で9人(4.8%)増加しました。長期的には減少傾向にあったものの、令和4年は256人と26年前の平成8年を超える水準まで急激な後戻りをし、令和5年は前年の12月末現在速報値の188人をさらに上回りました。なお、岩手県内の7つの監督署別では、一関以外は前年同期比で減少し、一関のみが増加となりました。このうち新型コロナウイルス感染症によるものは30人で、これを除くと167人となるものの、前年同期の135人からは+32人(+23.7%)と大幅に増加しました。また、死亡者数(内数)は前年を1人下回るものの製造業で1人発生しました。

主な業種別(新型コロナウイルスによるものは除く)では、製造業が42人(前年同期比+5人)と最多で、建設業が25人(同+5人)、保健衛生業が20人(同+3人)、商業が19人(同+8人)、接客娯楽業が15人(同+12人)、運輸交通業が13人(同-7人)、農林業(同+1人)と畜産水産業(同+4人)が各9人などとなっており、全体的に増加したほか、とくに第三次産業での増加が目立ちました。

事故の型別(新型コロナウイルスによるものは除く)では、「転倒」が53人(同+14人)と最も多く、このほか「墜落・転落」が26人(同+9人)、「飛来・落下」が16人(同+11人)、「動作の反動・無理な動作」が15人(同+6人)、「激突され」が14人(同-2人)、「はさまれ・巻き込まれ」が12人(同-8人)、などとなっています。

事故の型別で多いものを細かくみると、転倒では、「滑り」が22人でさらにこのうち13人が冬季関連(令和5年1~4月が12人、令和5年12月が1人)、「躓き」が17人、「踏み外し」が3人、「衣服や道具の引っ掛かりによるもの」が5人、「その他」が6人となりました。また墜落・転落では、「乗り物」からが10人(運転室2人、荷台5人、その他3人)と最も多くありました。

その他の特徴として、年代が高くなるにつれて多発傾向があること、経験年数が短いほど多発傾向があることなどがみられました。

TOP6	事故の型	割合
1位	「転倒」	32%
2位	「墜落・転落」	16%
3位	「飛来・落下」	10%
4位	「動作の反動・無理な動作」	9%
5位	「激突され」	8%
6位	「はさまれ・巻き込まれ」	7%

注意) 業種によっては、特徴・傾向が全体(全産業)とは異なる場合もあります

	転倒の詳細な種類	割合
1位	「滑り」	42%
2位	「躓き」	32%
3位	「衣類や道具の引っかかりによるもの」	9%
4位	「踏み外し」	6%
	「その他」	11%

	墜落の詳細な起因物	割合
1位	「乗り物」	38%
2位	「脚立・はしご」	15%
3位	「階段」	12%

まとめ

- ① 災害防止の基本は、「安全の基本ルールを順守すること」と「危険を予知・想像すること」です。
- ① 実際に多い労働災害の種類に着目することも、災害防止への近道です!!
- ① 安全教育の十分な実施、エイジフレンドリーガイドラインへの取り組みも重要です

労働災害事例(12月把握分)(一部)	
<p>《商業》 ○事故の型：転倒 ○休業見込み：2か月 ○30代男性(経験年数10年未満)</p> <p>新聞配達先の私有地内で、地面が凍結しており、滑って転倒した。(足骨折)</p>	<p>《建設業》 ○事故の型：墜落・転落 ○休業見込み：4か月 ○70代男性(経験年数40年以上)</p> <p>出勤時会社敷地内駐車場において、後方スペースが狭いと感じながらトラックを開けたところ、予想以上に抵抗が強く、反動で2m下の法面下に転落した。(2か月後に体調不良を感じ、「慢性硬膜下血腫」が発覚)</p>
<p>《製造業》 ○事故の型：転倒 ○休業見込み：1か月 ○50代男性(経験年数1年以上)</p> <p>加工場内で、パック詰め作業が終わり、別の作業をしようと歩いて移動していたところ、滑って転倒した。(手首骨折)</p>	<p>《社会福祉施設》 ○事故の型：切れ、こすれ ○休業見込み：10日 ○60代女性(経験年数5年以上)</p> <p>厨房内の洗い場で、ミキサーを洗っていたところ、ミキサーの刃で指を切創した。(指切創)</p>
<p>《社会福祉施設》 ○事故の型：動作の反動、無理な動作 ○休業見込み：1か月 ○30代女性(経験年数1年以上)</p> <p>入所者の居室で離床介助をしている時、起こそうとする方向とは反対側に利用者がのけぞってしまい、腰を強く引っ張られた。(外傷性頸椎椎間板ヘルニア)</p>	<p>《製造業》 ○事故の型：切れ、こすれ ○休業見込み：1週間 ○30代女性(経験年数1年以上)</p> <p>肉のスライス作業後、設備(スライサー)を洗い、拭き上げ中に、刃で指を切創した。(指切創)</p>